

## 浅間山

火山活動度レベル（平成 18 年 9 月）

22 日に火山活動度レベルを 2（やや活発な状況）から 1（静穏な状況）に引き下げました。

概況（平成 18 年 9 月）

浅間山では、2005 年 6 月以降やや活発な状況で推移してきましたが、火山性地震や火山性微動の回数、火山ガス放出量が低下するなど、火山活動は静穏な状態になりました。

表 1 浅間山 火山情報の発表状況（平成 18 年 9 月）

火山情報名	発表日時	概要	レベル
火山観測情報第 35 号 ～ 火山観測情報第 37 号	毎週金曜日 16 時 00 分 定期的に発表	最近の火山活動評価、火山活動の状況（噴煙・火映・地震・微動・地殻変動・火山ガス）。	2
火山観測情報第 38 号	22 日 14 時 00 分	火山活動度レベルを 2 から 1 に引き下げた。	2 1



図 1 浅間山 噴煙の状況（2006 年 9 月 25 日、鬼押し出し遠望カメラによる）

この資料は気象庁のほか、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

### 噴煙および火映の状況

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上100～200mで推移しました（図 1、図 4 - 、表 2）。

今期間、火映<sup>1)</sup>は観測されませんでした（図 4 - 、表 2）。

1) 上昇した溶岩や火山ガスにより火口内が高温になった場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象。

### 火山ガス（二酸化硫黄）放出の状況

19日に実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり100～200トンと、前回（8月29日100～200トン/日）と同程度で、やや少ない状態が続いています。（図 4 - 、表 2）。

### 山頂火口内の熱の状況

20日に実施した山頂付近の観測では、火口内は噴煙のため詳細な状況を確認できませんでしたが、噴煙の切れ間から確認した範囲では火口内の地形に大きな変化はありませんでした。また、火口周辺に新たな噴出物は認められませんでした（図 2）。

山頂火口縁からの赤外熱映像装置<sup>2)</sup>による観測では、火口底の一部に依然として高温部分が認められました。2005年8月以降の観測結果を比較すると、高温部分の縮小傾向が認められ、火口内の熱活動は次第に低下しています（図 3）。

2) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

### 地震および微動の発生状況

火山性地震は、やや少ない状態で経過しました（図 4 - ～、表 2）。発生した地震のほとんどは周期の長い特徴を持つ BL 型地震（波形例は図 7 を参照）で、震源は求まっていませんが山頂火口直下のごく浅いところに発生していると推定されます。また、BL 型地震のほかに、周期の短い特徴を持つ A 型地震や BH 型地震（波形例は図 7 を参照）も少数ながら発生しています。これらの地震のうち、求まった震源のほとんどが山頂火口直下の深さ約 1～3 km に分布しており（図 5）これまでと比べて特に変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした（図 4 - 、表 2）。

### 地殻変動の状況

山体周辺の GPS 連続観測（図 4 - ）では、特段の変化はありませんでした。

このほか、傾斜観測<sup>3)</sup>や光波測距観測<sup>4)</sup>（図 4 - ）でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

3) 傾斜計を用いて山体の膨張や収縮による地面の傾きを観測しています。

4) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定し、山体の膨張や収縮による距離の変化を観測しています。



図 2 浅間山 山頂火口の状況（2006 年 9 月 20 日）

左側：火口北縁から火口南東方向を撮影

右側：火口北縁から火口南西方向を撮影

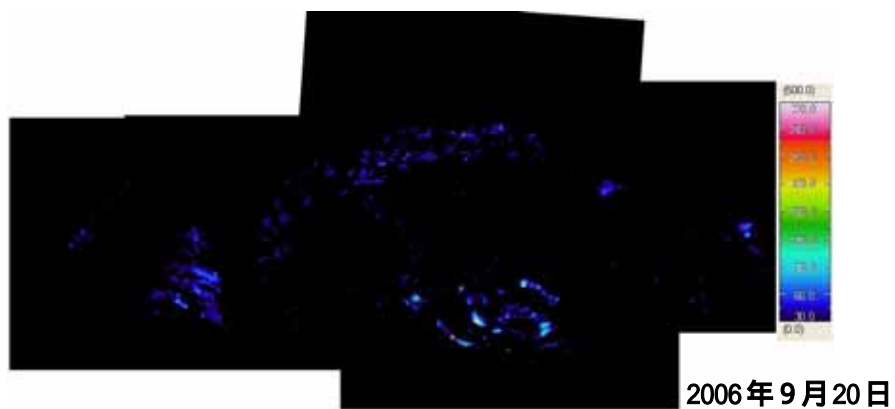
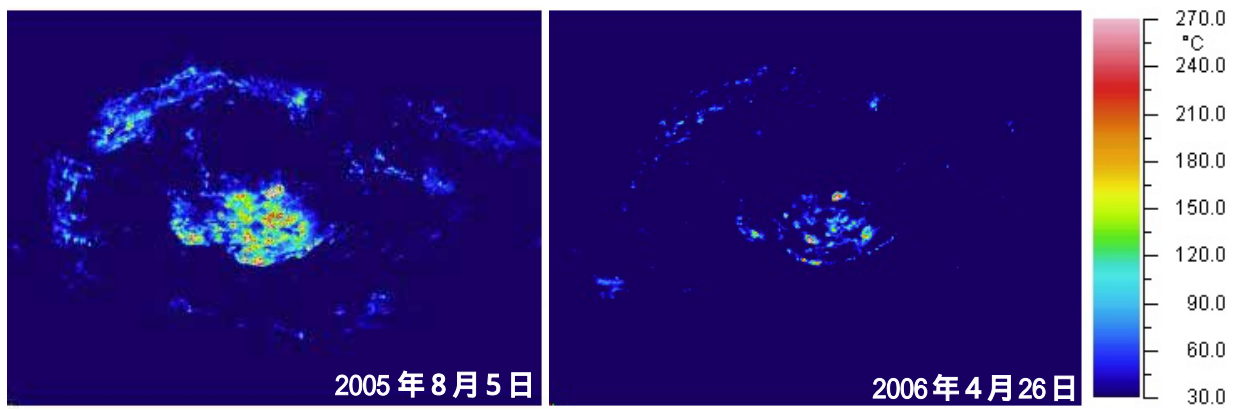


図 3 浅間山 赤外熱映像装置<sup>2)</sup>による火口内の温度分布（火口南西縁から撮影）

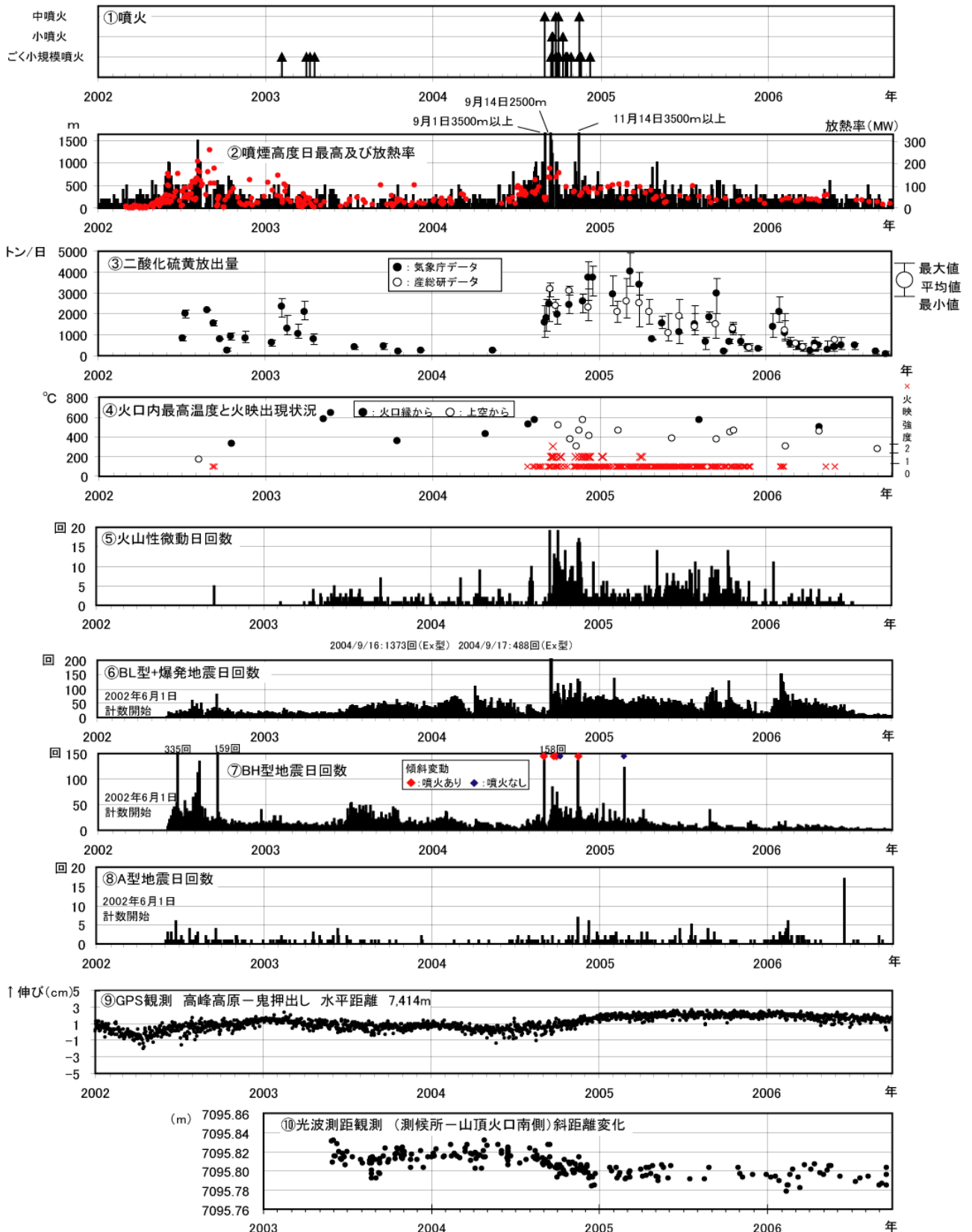


図4 浅間山 最近の火山活動の推移(2002年1月~2006年9月)

の二酸化硫黄放出量グラフには産業技術総合研究所によるデータも含まれています。  
、及びは、地震の種類別(図5参照)に計数を開始した2002年6月1日からのデータを掲載しています。

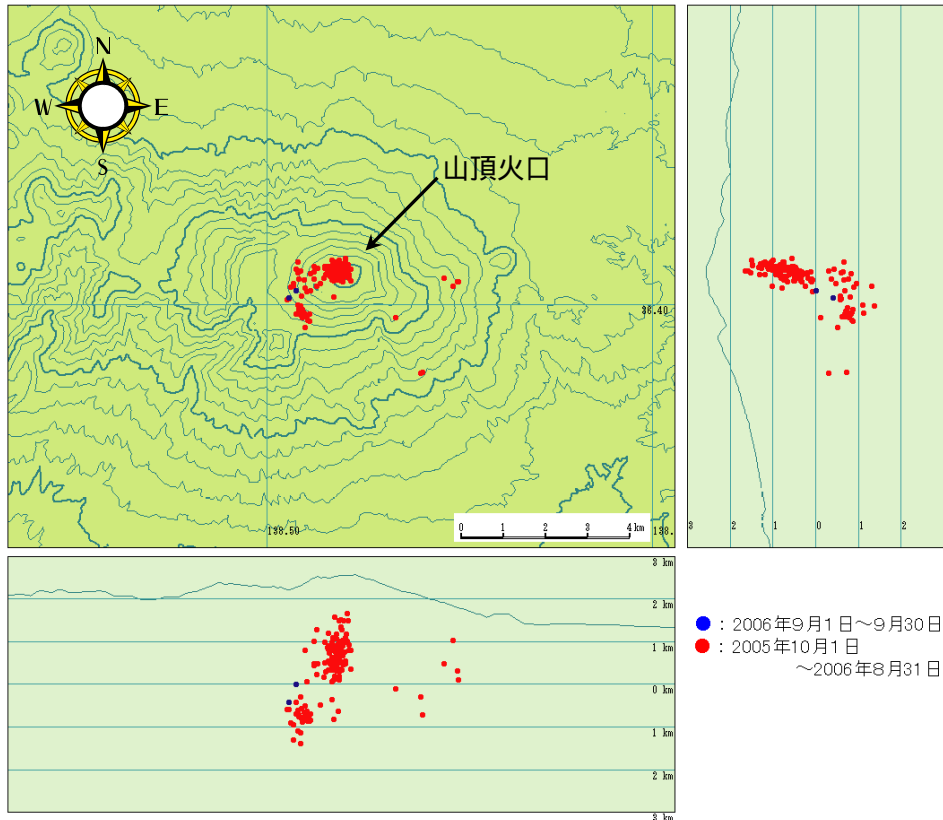


図5 浅間山 火山性地震の震源分布(2005年10月1日~2006年9月30日)  
震源計算には気象庁及び東京大学地震研究所のデータを使用しています。

観測点情報

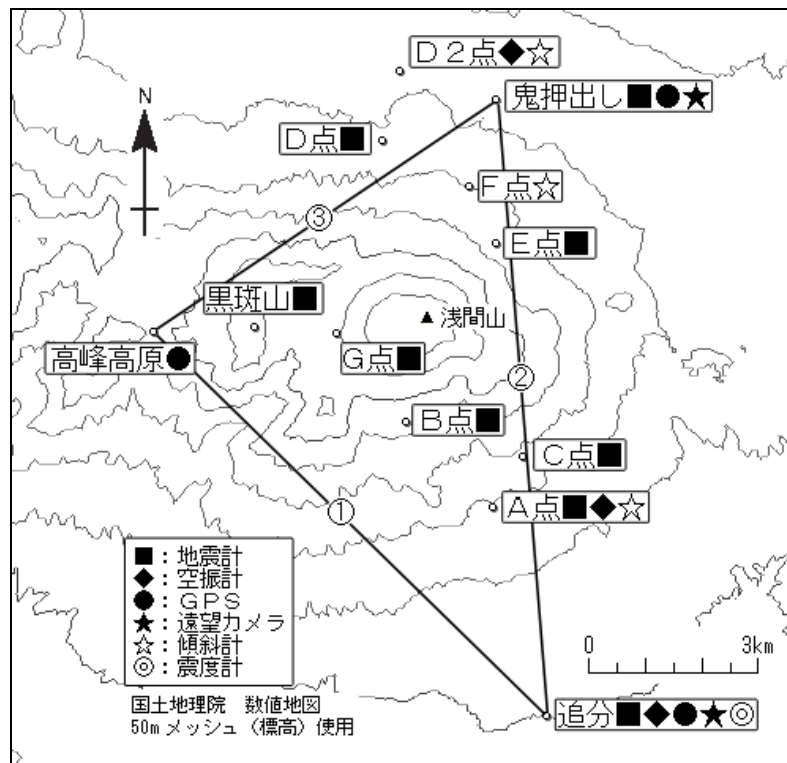


図6 浅間山 気象庁の観測点配置図(小さな白丸は観測点位置を示しています)

表2 浅間山 2006年9月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数5)					地震合計	微動回数	噴煙の状況6)		火映強度7)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他			日最高(m)	噴煙量		
1日	0	2	2	10	0	0	14	0	X	X	-	
2日	0	0	1	5	0	1	7	0	200	2	-	
3日	0	0	0	9	0	0	9	0	X	X	X	
4日	0	0	1	4	0	0	5	0	X	X	X	
5日	0	0	0	7	0	0	7	0	100	X	-	
6日	0	0	0	3	0	0	3	0	X	X	-	
7日	0	0	0	7	0	0	7	0	X	X	-	
8日	0	0	2	3	0	0	5	0	X	X	X	
9日	0	1	0	4	0	0	5	0	X	X	X	
10日	0	0	2	3	0	0	5	0	100	X	-	
11日	0	0	1	5	0	1	7	0	X	X	-	
12日	0	0	0	10	0	0	10	0	X	X	X	
13日	0	0	0	8	0	0	8	0	X	X	X	
14日	0	0	2	4	0	0	6	0	X	X	X	
15日	0	0	3	3	0	0	6	0	X	X	X	
16日	0	0	0	6	0	0	6	0	X	X	X	
17日	0	0	1	8	0	0	9	0	X	X	X	
18日	0	0	1	6	0	0	7	0	X	X	X	
19日	0	0	2	3	0	0	5	0	X	X	-	SO2放出量:100~200トン/日
20日	0	0	0	2	0	0	2	0	50	X	-	
21日	0	0	2	5	0	0	7	0	X	X	X	
22日	0	0	1	3	0	0	4	0	X	X	X	
23日	0	0	1	4	0	0	5	0	X	X	X	
24日	0	0	1	4	0	0	5	0	200	X	-	
25日	0	0	0	5	0	0	5	0	200	1	X	
26日	0	0	1	3	0	0	4	0	X	X	X	
27日	0	0	2	5	0	0	7	0	X	X	-	
28日	0	0	0	4	0	0	4	0	200	1	-	
29日	0	0	0	4	0	0	4	0	X	X	X	
30日	0	0	0	6	0	0	6	0	100	X	X	
合計	0	3	26	153	0	2	184	0				

5) 計算基準: B点振幅0.1μm以上でS-P時間3秒以内、火山性地震の種類は以下のとおりです。

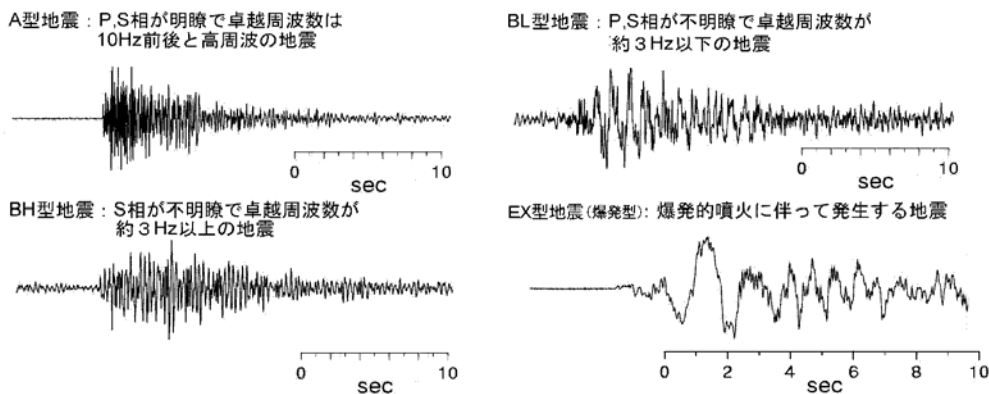


図7 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

6) 噴煙の高さと噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

- 1: 極めて少量    2: 少量    3: 中量    4: やや多量    5: 多量    6: 極めて多量
- 7: 噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

7) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

- 0: 肉眼では確認できず、高感度カメラによってのみ確認できる程度    1: 肉眼でようやく認められる程度
- 2: 肉眼で明らかに認められる程度    3: 肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
- : 火映なし    x: 視程不良(終日観測できなかった場合)